

一 般 質 問

令和 4 年 9 月 9 日
第 3 回広尾町議会定例会

通告 順序	議席 番号	質 問 者
1	1 1	旗 手 恵 子
2	4	前 崎 茂
3	1 0	小 田 雅 二

通告順序 1 質問者：旗 手 恵 子

1. 季節労働者の冬期雇用対策を

物価高が家計を直撃している中、季節労働者の冬期間の生活を支えるために、町独自の雇用対策事業が必要と思うが、就労の場を提供すべきでは。

1. 加齢性難聴の補聴器購入費助成について

高齢化社会を迎えている今日、加齢性難聴者が年々増加している。年齢を重ねると耳が聞こえにくくなる加齢性難聴は、70歳代の3分の1、80歳代の3分の2が該当すると言われている。加齢性難聴は、放っておくと日常生活の会話が困難になり、孤立し「うつ状態」になりやすくなるとも言われている。

国際アルツハイマー病協会では、「難聴が認知症の最大の危険因子になる」と指摘されている。早期に補聴器を使用すれば「聴力」が維持できるとされている。

重度・高度難聴者については、購入費の9割が公費負担となるが、会話が困難となる中等度難聴は公費負担がないため、片耳8万円から25万円以上する高額な補聴器を全額負担しなければならない。

今日、補聴器助成をする自治体が東京都江戸川区など15区ほか全国に広がっている。本町も早急に検討すべきでは。

2. 学校給食費軽減による子育て支援を

1954年に学校給食法が制定され今日まで70年近く推進してきたところである。平成30年、文部科学省が平成29年度の学校給食費無料化調査で、全額または一部を補助している自治体は506に達していると公表した。

北海道では、令和2年度で27自治体が全額無償化を実施し、令和3年度から根室市が、同年10月から紋別市も無償化にした。また、白糠町では平成29年から第2子以降を、平成30年度からは全小中学校の給食費無償化を実施している。とりわけ同町は、「子育て応援日本一のマチ」を宣言し、出産祝金、18歳まで医療費無償化等も行っている。

管内では、陸別町、足寄町、浦幌町、鹿追町が全額、更別村や本別町は第2子半額、第3子無償等に取り組んでいる。本町でも子育て支援として、第2子半額、第3子無料とし、保護者の負担軽減を図ってはどうか。

通告順序 3 質問者：小 田 雅 二

1. 「書かない窓口」について

8月31日付けの北海道新聞にも北見市の「書かない窓口」の記事があったが、広尾町としてもこの件について取り組んでいく考えはないのか伺う。